

ママのための日本語トレーニング

最終回



子どもから批判されてドキリとしたことはありませんか? 成長とともに、子どもは親に対しても自分なりの考えをもつようになります。成長のあらわれとしてしっかりと受け止めてあげたいものです。

出口 汪 てくちひろし

大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ(小学館)が好評発売中。

弟とのケンカを仲裁したら「お母さんは弟にばかり甘い」と長女。どんな言葉をかけてやったら……。

今月のお題
伝える技術 10

問題文

ある日、長女(小5)と長男(小1)が大ケンカ。いつになくヒートアップして、つかみ合いになったのでさすがに止めました。めそめそ泣く長男を慰めていたところ、それを見た長女が「私はいつもガマンして」と、ひと言ほろり。

母親として、「の子だから」「の子だから」という接し方にしてこなかったつもり……。それだけに、娘にどんな言葉をかけてやったらいいのか迷います。

- 母 「いつも、平等にしてきたつもりだけど……」
- 娘 「コウタはいいよね。お母さんが慰めてくれて」
- 母 「まだ、幼いのよねえ」
- 娘 「だって、もう小1だよ」
- 母 「そうだけど……」
- 娘 「私が小1のころ、あんなにめそめそしなかった」
- 母 「あなたは、しっかりしてたから」
- 娘 「お母さんに抱っこしてもらわなかった」
- 母 「どうしたのよ、急に」
- 娘 「急にじゃない。いつも思ってたよ!」

解答例

娘の言葉を受け入れる姿勢が大切です

- 母 「そんなふうに感じてたの!」
- 娘 「コウタはいいよね。お母さんが慰めてくれて」
- 母 「そういうのを見ると嫌な気持ちになる?」
- 娘 「私が小1のころ、あんなにめそめそしなかった」
- 母 「がんばりやさんだったよね。でも、お母さん、あなたに少し甘えてたのかも。そんな思いさせているなんて気づかなかったもの。ごめんさい!」
- 娘 「どうしてコウタを甘やかすの?」
- 母 「コウタはすぐ泣いちゃうから。みんな違うのよ、少しずつ」
- 娘 「そうだけど……」
- 母 「もつとあなたの気持ちをわかってあげたら、よかったのよね」
- 娘 「私だって、コウタとケンカしたいわけじゃないし……」
- 母 「お母さんは、ふたりが仲良くしてるのを見るのが大好き。でも、あなたにガマンしてほしいわけじゃないの。今日みたいに打ち明けてくれるとうれしいな」

論理アタマが育つポイント

まず、お母さんが娘に共感すること。
そのうえで、娘が視点を変えて
他者の気持ちを考えられるように導きましょう。

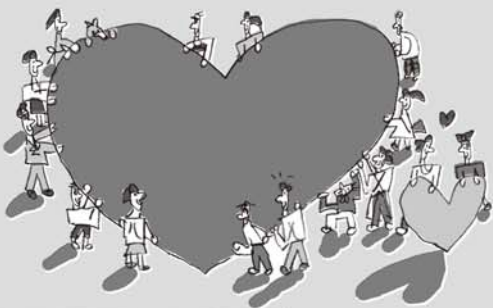


「人の気持ちになつてみる」とは、どういうことでしょうか? 自分ではない誰かの中を想像することでしょうか? 心の中が、少々ややこしいような話ですね。
では、こういう言い方にしてみたら、少し違うかもしれません。「その人の視点に立ってみる」。つまり、その人の立場から、物事がどのように見えているか、ということですね。
たとえば、子育てにおいて大切なこととして、しばしば「子どもの目線に高さに合わせて考える」ことがあげられますが、これも「視点を変える」例のひとつでしょう。ただ、大人にとっては、このように言葉だけで説明できますが、子どもには実感がともなわないと少々むずかしいように思います。

子どもが欲しいのは
言い訳ではなく共感

いいチャンスです。
とはいっても、子どもにしてみれば切羽詰まった発言ですから、お母さんや弟の立場に立って考えてみるような余裕はありません。傍線①のように、「そんなつもりではなかった」とお母さんが言い訳しても、子どもには何の説得力もないでしょう。それで悲しい思いがなくなるわけではないのですから。
まず、上の子に必要なのは傍線②のように、共感する言葉。それから、傍線③のような「あなたの気持ちをもつて聞かせて」という、お母さんの思いが伝わる言葉です。場合によっては、気づかないまま心を傷つけていたことを謝ってもらいやすいのではないのでしょうか(傍線④)。

視点を変えるには
気持ちの余裕が必要です



気持ちを聞かせてくれることをより望んでいる」と率直に伝えるアプロンチが効果的になります。「私はガマンして」と思っていた子どもにとつて、「視点を変える」よききっかけとなり、同時に、親や兄弟との新しい関係をスタートすることにもつながるでしょう。
自分が思わず吐露した言葉に共感され、自分自身も新しい視点を手に入れるという体験は、子どもを成長させる貴重なステップともなるはずです。

出口先生の小学生のママ向けサイトがオープン!
「クーンと伸びる、小学生のチカラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>

「ママのための日本語トレーニング」は、今月で修了します。ご愛読ありがとうございました。